

AVR-1000

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオレシーバーAVR-1000をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

AVR-1000の優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

AVR-1000の主な特長	1
豊かなA/Vライフのために	2
オーディオ・ビデオ機器の接続のしかた	3~10
フロントパネルの名称とはたらき	11~19
放送受信のしかた・メモリーのしかた	20~24
レコード演奏のしかた	25
テープデッキの再生・録音のしかた	26・27
ビデオの再生のしかた	28・29
参考仕様	30・31
故障と思われる時には	32~34

AVR-1000の主な特長

1. A/Vのための豊富な機能

本機には2台のビデオデッキ（またはビデオディスク）を接続することができますので、オーディオシステムとビデオ（映像）システムを使い快適なA/V（オーディオ・ビデオ）ライフを満喫していただけます。また、DNC（ダイナミック・ノイズ・キャンセラー）回路やシミュレートッドステレオ回路など、A/Vのための優れた機能を備えています。

2. クラス A ターボ搭載

入力信号によりA級動作とA B級動作を自動切り換えするクラス A ターボ採用と新開発歪打ち消し回路ZDR（ゼロディストーションルール）を設けて、高品質とハイパワーを同時にお楽しみいただけます。

3. 便利な4WAYチューニング

オートサーチ、マニュアルサーチ、ファインチューニング、更にプリセットチューニングシステムが可能です。

4. 16局のランダム選局が可能

AM/FMランダム16局プリセット、電源をONにした時、ラストステーションメモリー機能を搭載しています。

5. ワイヤレスリモコン(RS-9)で楽々操作

ワイヤレスリモコン（RS-9）が標準装備ですので、離れた所から数々の操作ができます。

6. 機能的なフロントパネル

ソフトな操作性を備えたスイッチやコントロールツマミは、フロントパネルにバランスよくマッチして、ヤマハ独自の優美なデザインを造りだしています。

豊かなA/Vライフのために

高い温度になる場所はさけて



ほこり・水気はさけて



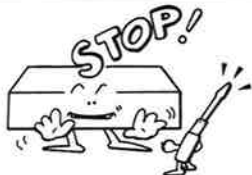
家庭用100V電源をつかって



化学薬品を使わないで



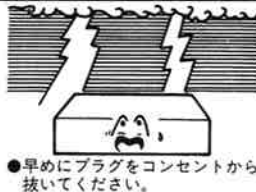
開けないで



コンセントは抜き方に注意して



雷が鳴りだしたら



通風孔をふさがないで!!



異常のときは



● 32～34ページの「故障と思われる時には」をご覧ください。

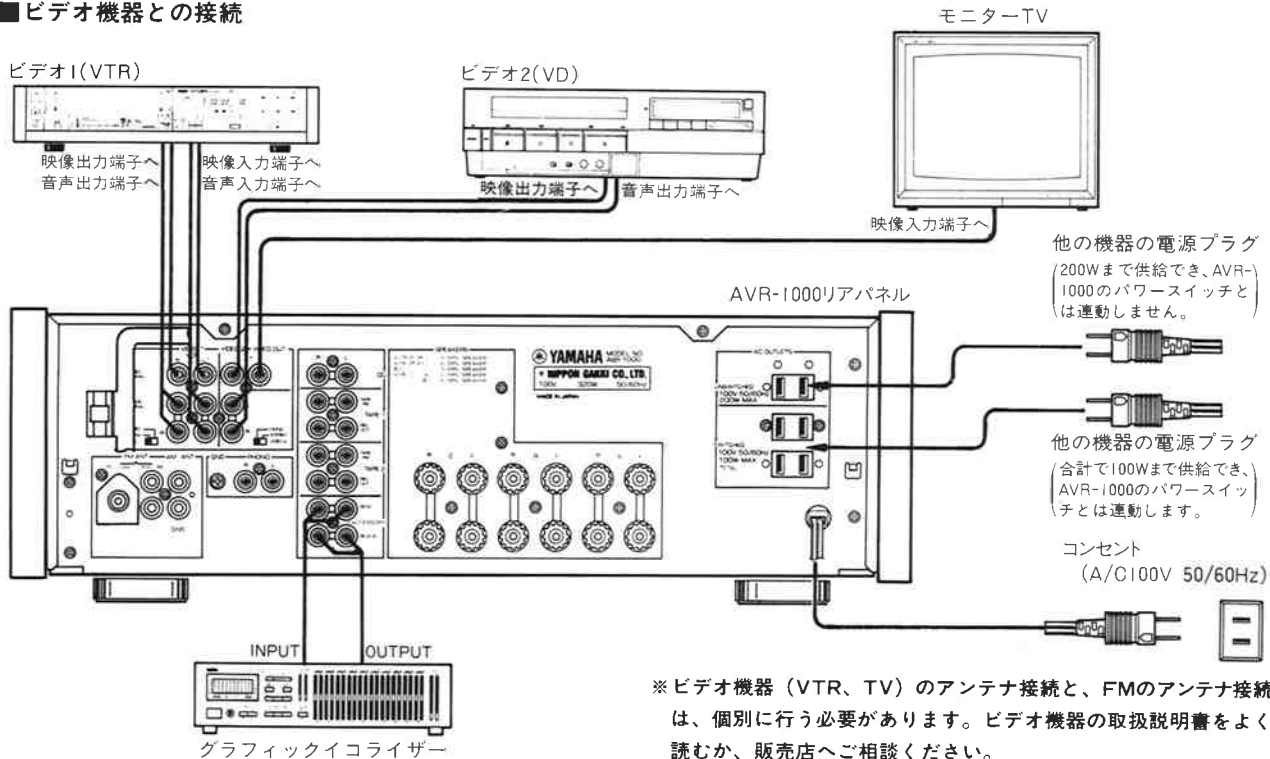
保証書の手続きを



取扱説明書と保証書は大切に



■ビデオ機器との接続



※ビデオ機器（VTR、TV）のアンテナ接続と、FMのアンテナ接続は、個別に行う必要があります。ビデオ機器の取扱説明書をよく読むか、販売店へご相談ください。

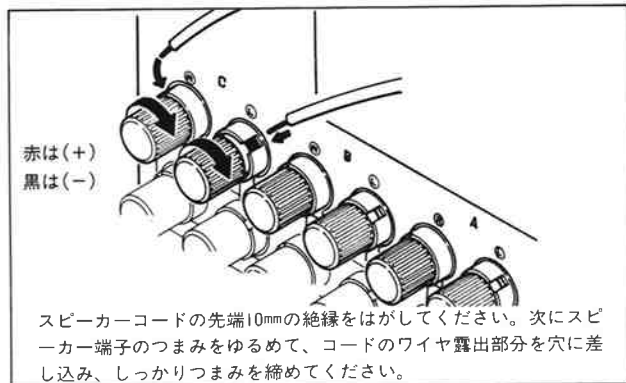
■スピーカーシステムの接続

SPEAKERS端子Aの⑧側に右側のスピーカーシステムを、①側に左側のスピーカーシステムを極性(+、-)を確認して接続してください。

SPEAKERS端子B及びCにも同様に1組ずつのスピーカーシステムを接続することができます。

※(+)(-)の配線がどちらかのスピーカーで逆になっていると、音は不自然で低音が響きませんのでご注意ください。

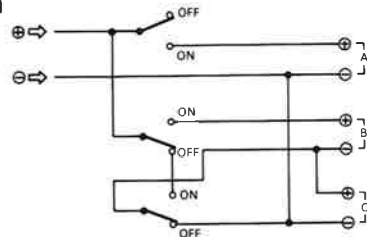
※スピーカーのコードはできるだけ短くしてください。余分のコードを床上に巻いておいたり、他のシステムコンポーネントのコードともつれないようにしてください。



A、B、Cそれぞれの端子に接続させるスピーカーシステムは下図のように、BとCは直列に、AとB、Cは並列になります。

- ①A、B、Cそれぞれ単独で使用する場合……………それぞれ6Ω以上
- ②AとB、またはAとCを同時に使用する…(A:12Ω以上
場合(並列使用) (BまたはC:12Ω以上)
- ③BとCを同時に使用する場合……………それぞれ3Ω以上
(直列使用)
- ④A、B、C3組を同時に使用する場合……………(A:12Ω以上
(直列、並列使用) (B、C:6Ω以上)

基本回路図



※接続するスピーカーは指定のインピーダンスの範囲内のものをご使用ください。スピーカーを並列に接続して使用する場合、スピーカーの合成インピーダンスが指定範囲を下まわらないようご注意ください。

※BまたはCの端子のどちらかを単独で使う場合、フロントパネルのスピーカーセレクタースイッチで、使用しない方の端子をOFFにする必要があります。ONになったままですと音は聞こえません。

■レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子に接続し、アース線をGND端子に接続してください。

■テープデッキの接続

本機では、TAPE 1、TAPE 2のそれぞれの端子にテープデッキの接続ができます。

TAPE PB 端子とテープデッキのLINE OUT端子、REC OUT端子とテープデッキのLINE IN端子をそれぞれ接続してください。

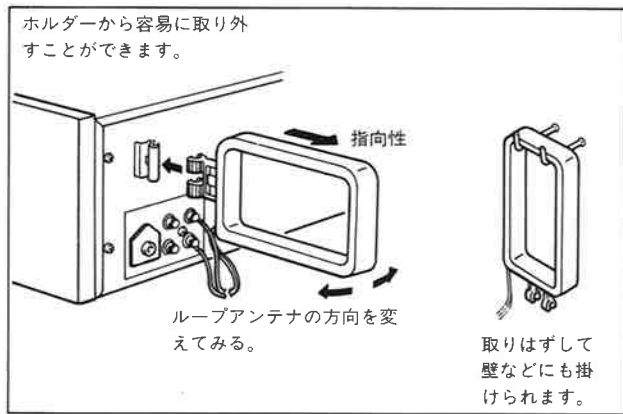
■CDの接続

コンパクトディスクプレーヤー(CD)はCD端子へ接続してください。

■AMアンテナの接続

●AM専用ループアンテナ

AM専用ループアンテナをAMアンテナ端子に接続し、SIGNAL QUALITY インジケータを見ながらループアンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向を探してください。ループアンテナはホルダーから外し、壁などに掛けて使用することもできます。また、本機に接続したテレビの影響でAM放送受信時に雑音が入る事があります。その時は、ループアンテナをテレビから離して設置するか、テレビの電源を切ってください。



●AMリードアンテナ

ループアンテナを調整しても受信状態が良くならないときは、ビニール被覆線5~10mを屋外に張り、その片側をAMアンテナ端子に接続してください。また、このときループアンテナも接続したままにしておいてください。

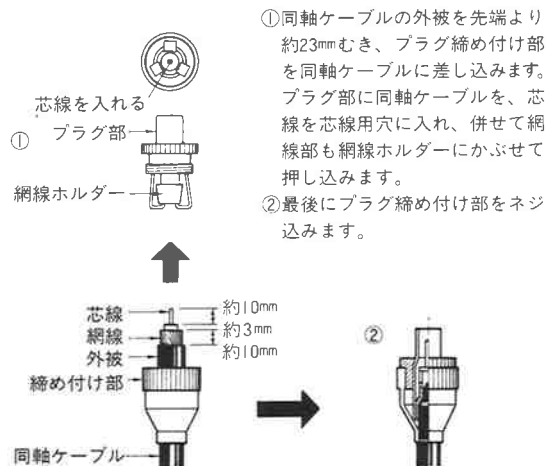
■FMアンテナの接続

FM放送を確実に受信するためには、受信する地域の電波の強さに応じたFM専用屋外アンテナを設置することが理想的です。

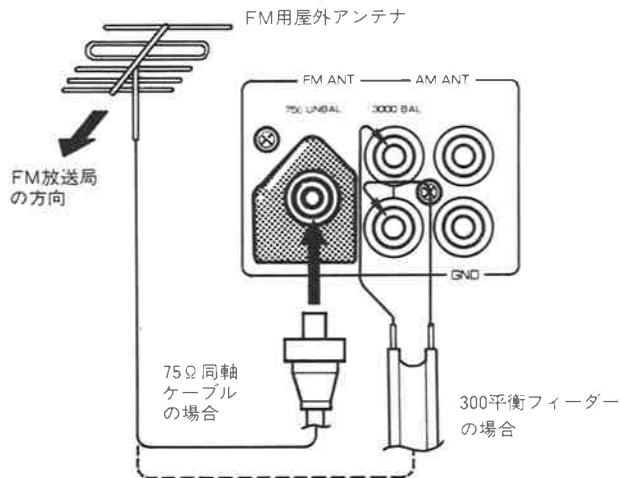
FMアンテナの接続には、75Ω同軸ケーブルと300Ω平衡フィーダー

線の2種類がありますが、オートバイや自動車のイグニッションノイズなど外部雑音には、75Ω同軸ケーブル（3C-2Vや5C-2V）の方が有効です。下図を参照して付属プラグで接続してください。

付属プラグと同軸ケーブル(3C-2V、5C-2V)の取り付け方



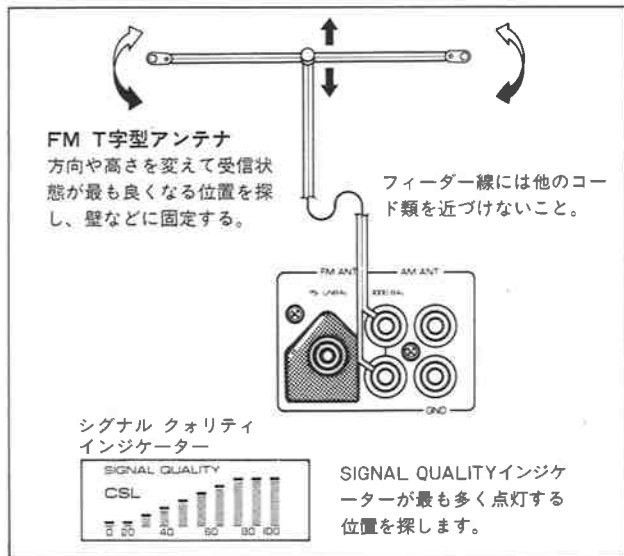
付属プラグは3C-2V、5C-2Vの同軸ケーブルのみ有効です。



■FM T字型簡易アンテナの接続

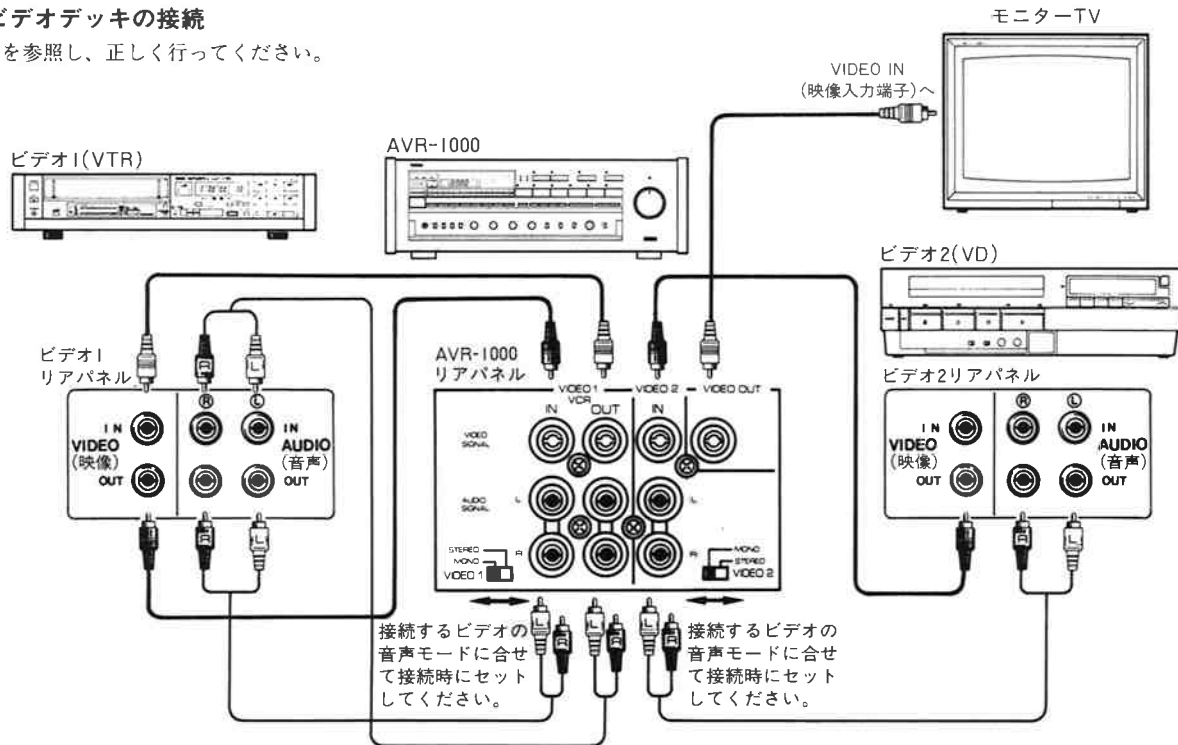
付属のT字型アンテナは、放送局に近く電波が十分に強い地域で受信する場合に使用します。

アンテナのフィーダー線をリアパネルの300Ω端子に接続し、水平部分をピンと伸ばして、SIGNAL QUALITYインジケータを見ながら最も受信状態の良くなる方向を選び、壁などに固定します。



■ビデオデッキの接続

下図を参照し、正しく行ってください。



ビデオデッキのVIDEO OUT(映像出力)端子を本機のVIDEO1またはVIDEO2のどちらかのVIDEO IN端子に接続し、そしてビデオデッキのAUDIO OUT(音声出力)端子を本機のAUDIO SIGNAL IN端子に接続します。このときビデオ及びオーディオの接続が同じ(VIDEO1またはVIDEO2)で、左右のチャンネル接続が正しいことを確認してください。

ビデオデッキがステレオタイプの場合は、リアパネルのSTEREO/MONOセクターがSTEREOになっていることを確認し、モノラルタイプのビデオデッキをお持ちの場合は、AUDIO SIGNAL IN端子の左右いずれかに接続し、リアパネルのSTEREO/MONOセクターをMONOにセットします。

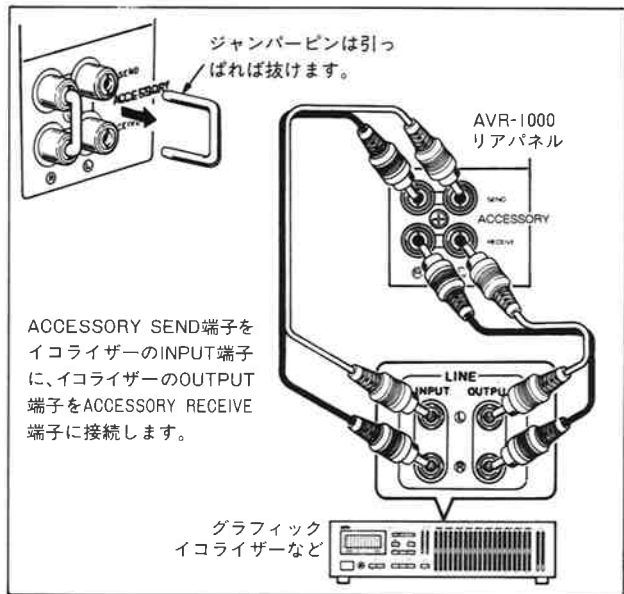
本機のVIDEO OUT端子をモニターTVのVIDEO IN(映像入力)端子に接続してください。

※2台のビデオデッキを接続するとVIDEO2からVIDEO1へダビングができますので、VIDEO2にはビデオディスクなど再生主体の機器を、VIDEO1にはビデオレコーダー(VTR)など録画のできる機器を接続すると便利です。

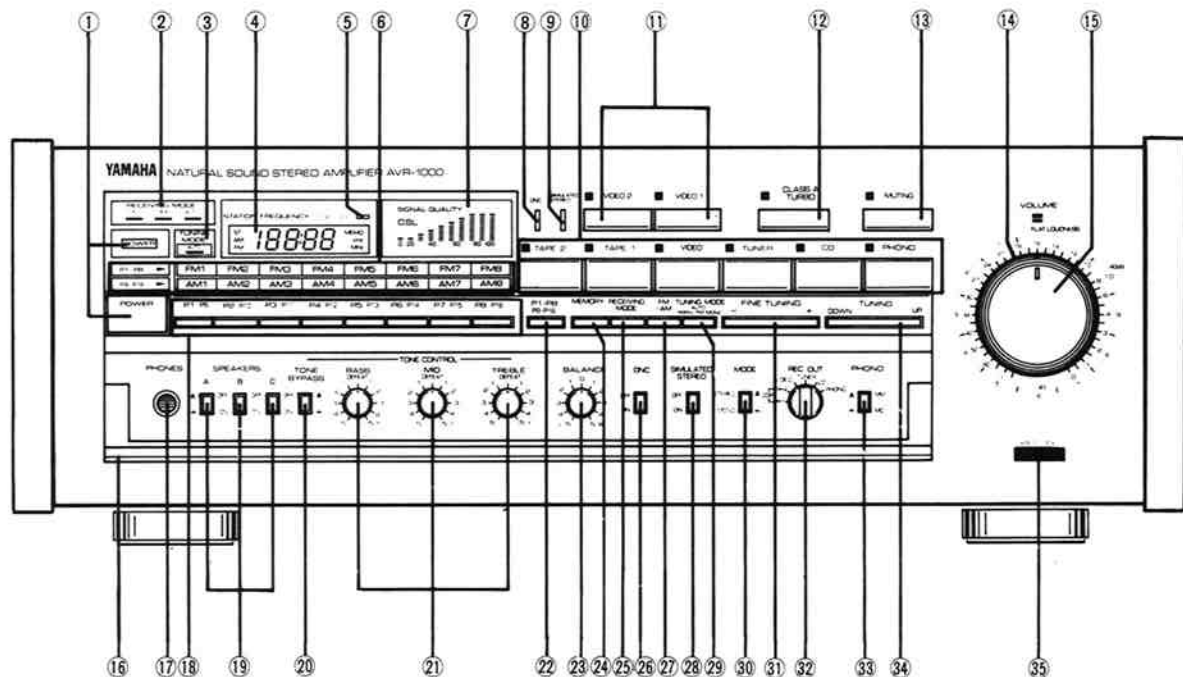
※テレビからの影響でAM放送やレコード演奏時に雑音の入ることがあります。このような時はAMループアンテナやレコードプレーヤーをテレビと離して設置するか、またはテレビの電源を切ってください。

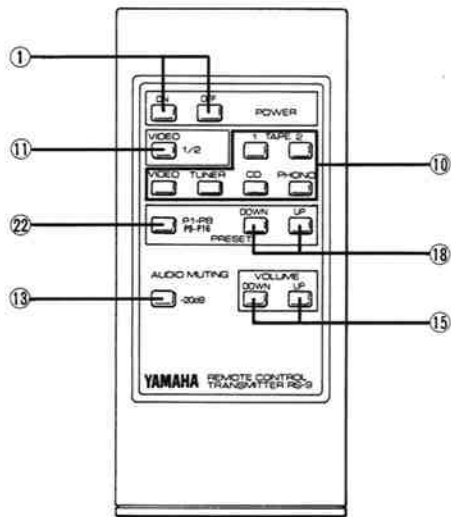
■アクセサリ端子の使用例

グラフィックイコライザー等を使用するときは、ACCESSORY端子に接続します。ACCESSORY端子よりジャンパーピンを抜き取り、図のように正しく接続してください。ACCESSORY端子を使用しないときは、ジャンパーピンは差し込んだままにしておきます。



フロントパネルの名称とはたらき





リモートコントロール(RS-9)

① パワースイッチ

このスイッチを押すと電源が入り、パワーインジケータ、デジタル周波数表示などが点灯します。もう一度押すと電源が切れます。

※電源を入れる前に、必ずボリュームを最小の位置にしてください。
 ※電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働いているため音が出ません。

② 受信モードインジケータ

受信モードキー②⑤を押すと、 $\boxed{\rightarrow \text{DX} \rightarrow \text{LOCAL} \rightarrow \text{AUTO} \rightarrow}$ の順で表示が変わります。

③ チューニングモードインジケータ

チューニングモードキー②⑨がAUTOにセットされた時、AUTOインジケータが点灯します。MANUALにセットされると消えます。

④ デジタル周波数インジケータ

チューニングキー③④またはプリセットキー⑱で合わせた局の周波数を表示します。表示の範囲は、FM 76~90MHz、AM 513~1,620 KHzです。

- FMステレオ放送受信時、STEREOインジケータが自動的に点灯します。
- メモリーボタンを押すとMEMORYインジケータが5秒間点灯します。この間にメモリープリセッティングを行いません。

⑤ファインチューニングインジケータ

チューニングモードがFINE TUNINGであることを表示し、FM放送の受信周波数が0.01MHz(=10kHz)の桁までの表示になります。(17頁、ファインチューニングキー③参照)

⑥受信ステーション表示パネル

P1～P8/P9～P16セクター②を押した後、プリセットボタン⑩を押すと、そのボタンに対応したインジケータが点灯します。

⑦シグナルクオリティインジケータ

受信した局の信号の強さを示します。局を合わせる場合は、一番強い信号を示すようにアンテナの高さと方向を調節してください。

⑧DNC(ダイナミック・ノイズ・キャンセラー)インジケータ

DNC作動中赤いLEDが点灯します。

⑨シミュレーテッドステレオインジケータ

シミュレーテッドステレオ作動中赤いLEDが点灯します。

⑩インプットセクター

入力端子に接続されているプログラムソースを選択するスイッチです。お好みのプログラムのボタンを押すとインジケータが選択されたプログラムを示します。

INPUT	プログラムソース
PHONO	レコードを演奏するとき。
CD	コンパクトディスク(CD)を演奏するとき。
TUNER	FM放送、AM放送を受信するとき。
VIDEO	ビデオを再生するとき。 (このボタンを押した後、VIDEO1またはVIDEO2)のどちらかを選びます。
TAPE 1	TAPE 1端子に接続したテープデッキを再生するとき。
TAPE 2	TAPE 2端子に接続したテープデッキを再生するとき。

⑪ビデオセクター

VIDEO1またはVIDEO2を選択します。(インプットセクターに関係なく選択されているVIDEO1またはVIDEO2の映像信号は、常にビデオアウトに出力されます。)

⑫クラスAターボ

スイッチがOFFの状態では、本機の動作はAB級(CLASSAB)動作のままですが、スイッチをON(上のインジケーターが点灯)にすると、動作はA級(CLASS A) AB級自動切り換えとなります。A級動作では、透明度が高く、歪の少ない音質が得られます。

特性として、A級動作はAB級動作に比べてこのように音質面では有利ですが、消費電力やアンプの発熱などの点では不利になりますので、お聞きになる状態に応じてスイッチを切り換えてください。

※A級動作では、AB級動作より無信号時でも常により多くのアイドル電流を流しており、セットの温度上昇を伴いますので、ご使用時の放熱には充分ご配慮ください。

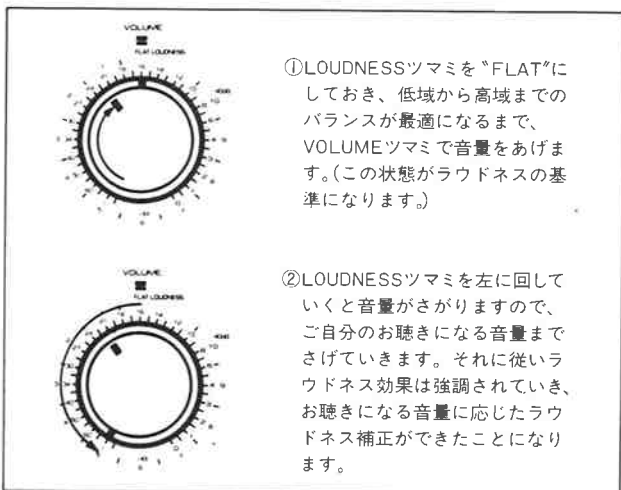
⑬ミュートスイッチ

このスイッチを押すと、上のインジケーターが点灯し、音量が音に下がります。もう一度押すとインジケーターが消灯し、元のボリュームに戻ります。このスイッチは、元の音量を変えることなく一時的に音量をさげたい時に便利です。また小音量で聴くとき、このスイッチを入れてボリュームつまみで調整すると微調整が簡単にできます。

※ミュートが作動中に、ボリュームを上げそのままミュートスイッチを切ると、急激な音量変化によりスピーカーに悪影響を与えますのでご注意ください。

⑭ラウドネスコントロール

人間の聴覚には、音量が小さくなるにつれて低音と高音が聞こえにくくなるという特性があります。これを補正するつまみです。一般のラウドネスではボリュームの回転角度により低域と高域が強調されるため、スピーカーの能率や音量、部屋の状態によっては不自然な補正となる場合がありますが、本機では音量の基準を自分で決められるため、自分の聴く環境と音量に従って自然なラウドネス効果を得ることができます。



⑮ボリューム

音量を調整するツマミで右に回すほど音量が大きくなります。


※ツマミを右に回したまま、電源スイッチを入れたり、レコード演奏を開始すると、急に大きな音が出ますので常に左いっぱいの位置から徐々に音量を上げていくように習慣づけてください。

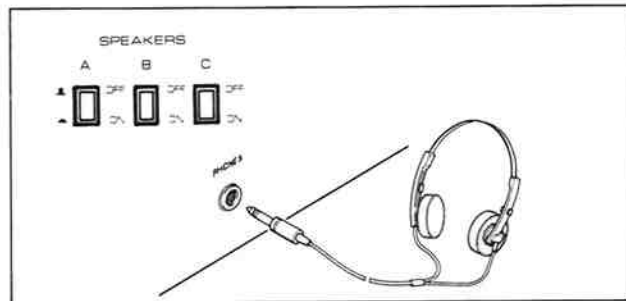
⑯シーリングパネル

使用頻度の少ないツマミやスイッチが入っています。開けるときは下側を軽く押してあけます。

⑰ヘッドホンジャック

ヘッドホンで聴く時に使う端子です。

ヘッドホンだけで聴く時にはA、B、Cのスピーカースイッチは全部OFF()にしてください。



⑱プリセットキー

このキーとP1～P8/P9～P16セクター⑳を使って、プリセット局を16局(FM、AM両方合わせて16局)までプログラムできます。各プリセットをプログラムする時には、局の周波数とチューニングモードを同時に記憶させることができます。プリセットキーに軽くふれるだけで選局できます。

⑲スピーカースイッチ

本機に接続されたスピーカーシステム(A・B・C)を選択するスイッチです。

Aのボタンを押すとA端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。(B・Cも同じです)

※A、B、C3つのボタンのうち2つ、または3つのボタンを同時に押すと、押されたそれぞれのシステムから同時に音が出ます。

詳しくは、スピーカーシステムの接続(5頁)をよくお読みください。

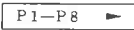

⑳トーンバイパススイッチ

このスイッチを押すと音声信号はトーンコントロール回路を通らずにメインアンプに直結され、よりクリアな音質になります。OFFにすると、トーンコントロール回路が働きます。


②1 トーンコントロール

音質調整用のつまみです。左からバス（低音）、ミッド（中音）、トレブル（高音）の順で、それぞれ“DEFEAT”ポジションでフラットになり、右へ回すほど（低音・中音・高音が）強調され、左へ回すほど減衰されます。

②2 P1～P8 / P9～P16セクター

このキーを押すたびに、プリセット局の範囲がP1～P8とP9～P16にかわり、受信ステーション表示パネル⑥に  又は、 が点灯します。

②3 バランスコントロール

スピーカーシステムの配置や、家具などの影響によって左右スピーカーの音の大きさが異なる場合があります。このようなとき、このつまみを回して左右の音量バランスを調整してください。バランス調整を行なう時は、モードスイッチ⑩をMONO()に合わせた方が容易です。

②4 メモリーキー


周波数をプリセットキー⑩に記憶させるのに使います。このキーを押すとインジケーターが約5秒間点灯します。インジケーターが点灯している間にプリセットキー⑩(P1～P8 / P9～P16)を押すと、表示されている受信周波数と受信モードを同時にメモリーすることができます。

メモリーの方法は23頁を参照してください。

●メモリー内容の保持

一度プリセットしたメモリーを消さないため、メモリーバックアップ回路を内蔵しています。従ってタイマー使用時や電源のOFFで一時的に電源が切れても、メモリー内容が消えてしまうことはありません。しかし、長時間ご使用にならなかった場合には、メモリー内容が消えてしまうことがあります。消えた場合には、電源を入れ、しばらく通電してから再度メモリーし直してください。メモリーのしかたは最初の場合と同じです。

②5 受信モードキー

このボタンを押すと受信モードが  と順次切り替わります。

●AUTOの位置では、受信した信号の強さは絶えずモニターされ、信号の強さが一定のレベルより下がったり、妨害電波があるとより選択度の高い回路に切り換わり、雑音の少ない受信ができます。

信号が強い時はこの回路は働かず、低歪、ステレオ分離度が良くなります。

●LOCAL位置は、放送局に近く電波が十分に強く、妨害の少ない地域でご使用の場合、あるいは電波の弱い放送局は受信しないで、強い局のみを受信する場合はこのポジションにします。解像度が高く透明感のあるワイドレンジな音質で受信できます。

●DX位置は遠くの放送局を受信する場合や、電波が弱くなったり妨害電波などがある場合に、このポジションにすると選択性が高まり、高い妨害排除特性を示しますので、雑音の少ないクリアな受信ができます。

②⑥ DNC (ダイナミック・ノイズ・キャンセラー) スイッチ

このスイッチを押すと、信号レベルに応じてノイズカットを自動的にコントロールします。受信状態の良いチューナー、モノラルビデオなどの時に使用すると効果的です。

②⑦ FM / AM セレクター

このキーを押すとFMとAMが切り替わります。FMでは周波数表示がMHz表示になり、AMではkHz表示になります。

②⑧ シミュレーテッドステレオスイッチ

ビデオ、テレビ放送、AM放送など全てのモノラル音声が擬似ステレオ化され、より迫力のある音響効果が楽しめます。

②⑨ チューニングモードキー

このキーを押してチューニングモードの切り換えを行ないます。(AUTO ↔ MANUAL)

● AUTO ポジション (インジケータ点灯)

チューニングキー③④で放送局を選局する際、周波数が同調すると自動的にストップします(オートサーチチューニング)。また、サーチ中ミューティング回路が働き、FM放送選局時に発生する局間ノイズをカットします。

FM放送はステレオで受信されます。ただし電波状態が悪い場合は自動的にモノラル受信に切り換ります。

● MANUAL ポジション

チューニングキー③④を断続的に押すと、周波数がFMでは0.1MHz、AMでは9kHzステップで変化します。(押し続けるとこのステップで連続して変化します。)

遠くの放送局を聞くときや、受信状態が悪いときは、AUTOでは受信できませんので、MANUALで選局してください。(マニュアルチューニング)

ただし、このポジションではFM放送もすべてモノラル受信となります。(選局してからAUTOにすると、オートステレオ受信ができます。)

オートサーチチューニング、マニュアルチューニングについては、20、21頁を参照してください。

③⑩ モードスイッチ

プログラムソースのモードを選択します。STEREO(■)では通常のステレオで再生され、MONO(■)ではモノラルで再生されません。

③⑪ ファインチューニングキー

ボタンを押すと周波数インジケータ内にファインチューニングインジケータが点灯し、FMの周波数表示が0.01MHz(=10kHz)ま

でとなります。また、AMでも1kHzステップのチューニングに変わります。(押し続けると上記のステップで連続的に変えることができます。)つまり、より正確なチューニングが可能になるわけです。+側を押すと表示された周波数は高い方へ、-側を押すと低い方へ変化します。

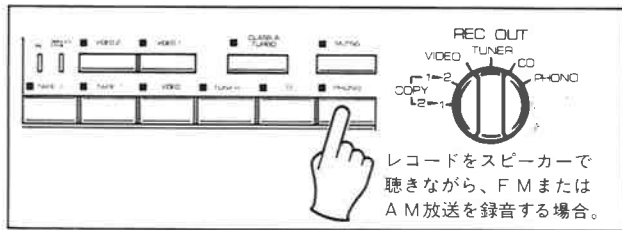
※FINE TUNING でのオートサーチチューニングはできません。

詳しくは、22頁を参照してください。

③②レックアウトセレクター

接続されているテープデッキに録音用の信号を選択して送り出すスイッチです。インプットセレクターに関係なく接続されているプログラムソースを選択して録音することができます。ただしビデオソースからの録音はビデオセレクターでVIDEO1またはVIDEO2の選択が必要です。たとえば、レコードを聴きながらREC OUTセレクターをTUNERに合わせてFM放送をエアチェックすることができます。

詳しくは、27頁を参照してください。



レコードをスピーカーで聴きながら、FMまたはAM放送を録音する場合。

③③フォノセレクタースイッチ

ご使用になるカートリッジにより切り換えてください。MM (ムービングマグネット) 型カートリッジはMM (■) ポジションで、MC (ムービングコイル) 型カートリッジはMC (■) ポジションでご使用ください。

※カートリッジの出力電圧は機種によって異なりますので、カートリッジの取扱説明書を参照してください。

③④チューニングキー

放送局を選局するボタンです。DOWN側を押すと、周波数インジケータに表示された周波数が低くなり、UP側を押すと高くなっていきます。

TUNING MODE スwitchのポジションによって、オートサーチチューニングあるいはマニュアルチューニングになります。

※キーは端をしっかりと押し下さい。真中を押しても作動しません。
※本機にはラストステーションメモリーの機能があります。電源を入れると、切る前に合わせてあった局に選局されます。

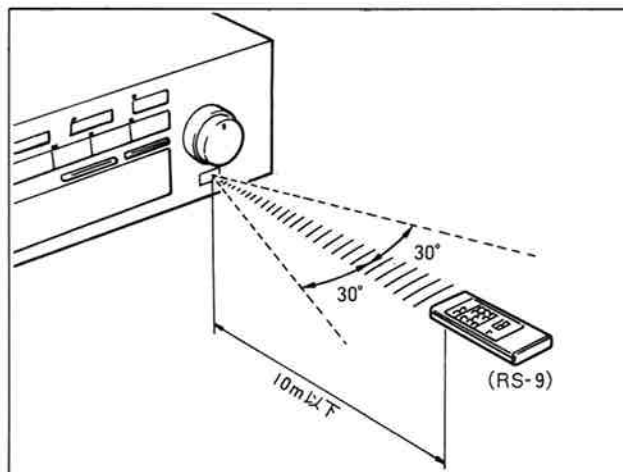
④ リモートコントロール受光部

この部分はリモートコントロールの受光部です。

● リモートコントロール

本体の電源がONの時、RS-9でリモコン操作が可能です。この時リモコンでパワーのON/OFF、インプットセレクターの選択、プリセットステーションの選択、音量の増減ができます。

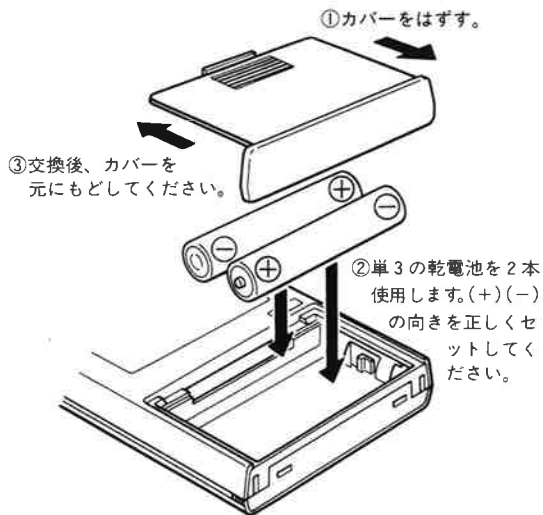
本体の電源をリモコンでOFFにした場合、パワーインジケータは点灯しています。停電すると、復帰した時に本体の電源はONになります。



● バッテリーの交換

バッテリーがなくなってくるとリモコンの働く距離が短くなります。このような時は、バッテリーを交換してください。

バッテリーの交換



放送受信のしかた・メモリーのしかた

■オートサーチチューニングのしかた

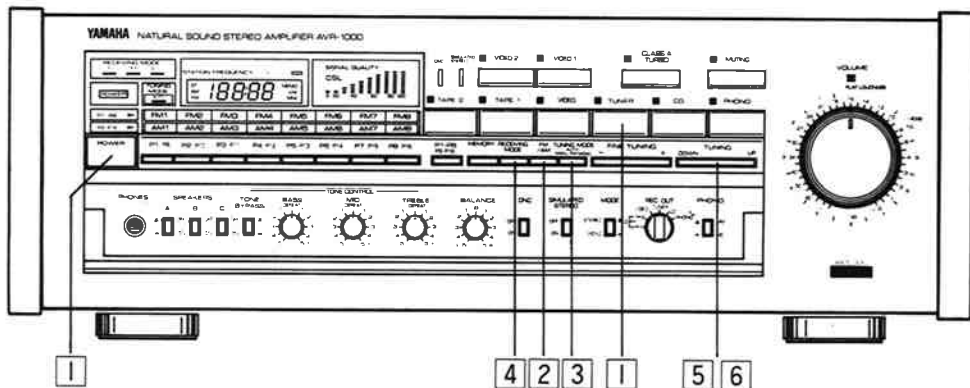
電波が強く妨害のない場合には、スピーディなオートサーチチューニングができます。

- 1.電源を入れ、インプットセクターの“TUNER” ボタンを押します。
- 2.バンドセクター(FM/AM) をセットします。
- 3.TUNING MODEを“**AUTO**”にします。
- 4.受信モードは“**AUTO**”にします。(FMのみ)
- 5.TUNINGボタンで選局します。

自動的に選局され、放送局に同調すると止まり、受信されます。

- 6.止まった所が目的の放送局でない場合は、もう一度、TUNINGボタンを押して選局を続けます。
- 7.プリセットメモリーの方法は23頁を参照してください。

※アンテナを取り付けていない場合や、ビルの室内などの電波の弱い所でオートサーチチューニングをした場合、周波数がいつまでも止まらないことがあります。この場合には、TUNING MODEを一度“**MANUAL MODE**”にして止めてください。

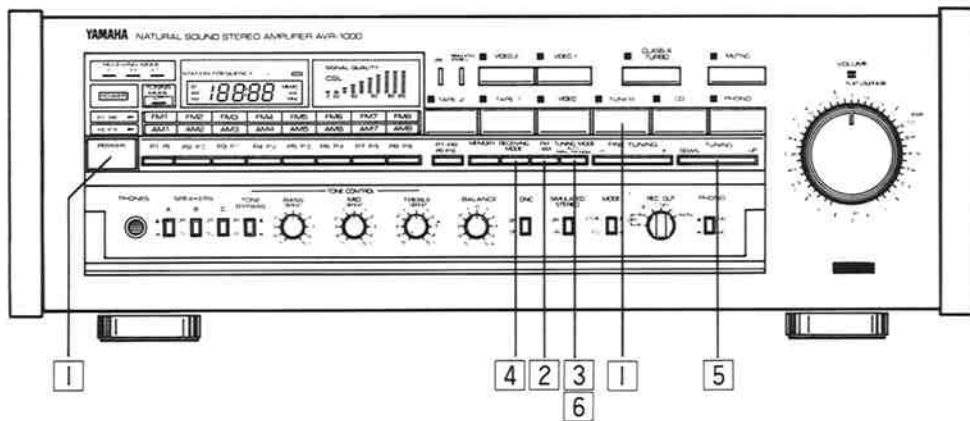


■ マニュアルチューニングのしかた

- 1.電源を入れ、インプットセクターの“TUNER” ボタンを押します。
- 2.バンドセクター (FM/AM)をセットします。
3. TUNING MODEを“MANUAL MONO”にします。
- 4.受信モードは“AUTO”にします。(FMのみ)
5. TUNING ボタンで選局します。

TUNING ボタンを押し続けると周波数が早く変化します。希望の

- 放送局の少し手前で離し、あとは1回ずつ押して周波数を合わせます。
6. TUNING MODEを“AUTO”にして受信状態が良好であれば、AUTOでステレオ受信ができます。
 7. プリセットメモリーの方法は23頁を参照してください。

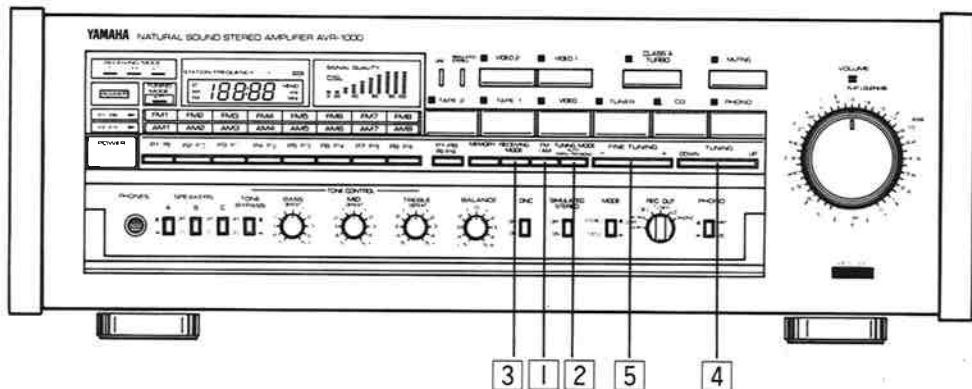


■ファインチューニングのしかた

電波の弱い放送局の受信や、オートあるいはマニュアルチューニング受信ではビート音が入る場合には、ファインチューニングが効果的です。

- 1.バンドセクター(FM/AM)をセットします。
- 2.TUNING MODEは“AUTO”、“MANUAL MONO”どちらでも選べます。
- 3.受信モードは“AUTO”にします。(FMのみ)

- 4.まず、TUNINGボタンで選局します。
- 5.次にFINE TUNINGボタンで最良受信となるように微調整します。(ボタンを押し続けると周波数が早く変化します。)
- 6.プリセットメモリーの方法は23頁を参照してください。



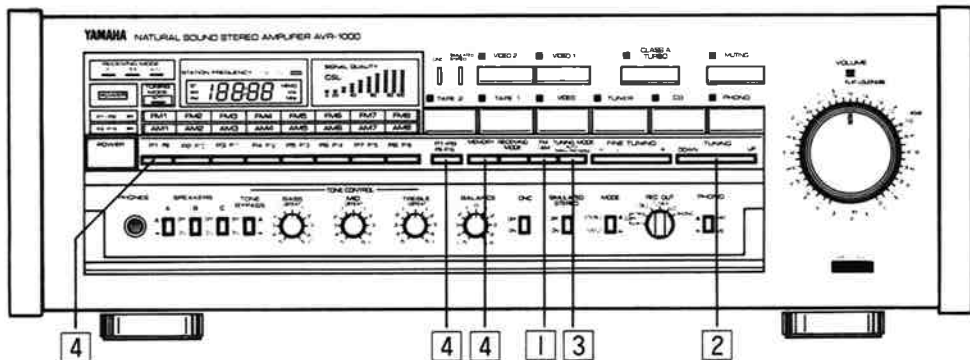
★プリセットメモリーのしかた

NHK FM (東京では82.5MHz)をプリセットボタンP 1にメモリーする場合を例に説明します。

1. バンドセクターでFMを選択します。
2. 前記のチューニングのしかたに従い、“FM 82.5 MHz”あるいは“FM 82.50MHz”をチューニングします。
3. TUNING MODEも同時にメモリーできますので、受信状態に応じてセットしてください。
4. MEMORYボタンを押し、インジケータが点灯している間にプリセットボタンP 1を押します。
5. これでNHK FM (82.5MHz)は受信モードも含めてプリセットボ

タンP 1にメモリーされました。確認のため、一度他のプリセットボタンを押し、再びP 1を押したとき、“82.5MHz”が表示されることを受信モードも含めて確認してください。

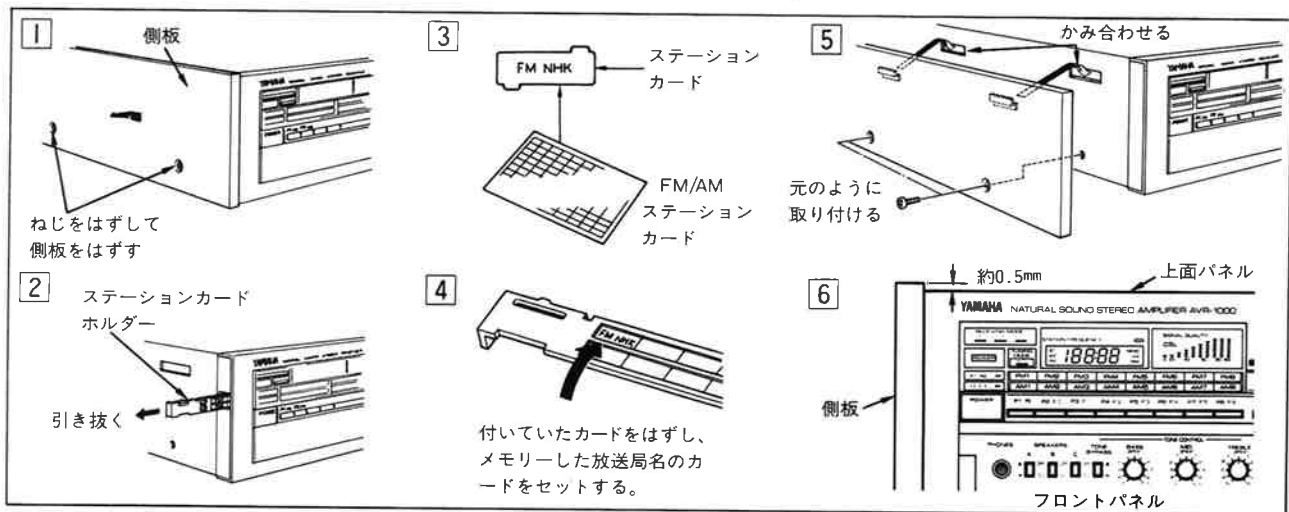
- P1-P8/P9-P16セクターにより、FM、AM合わせて16局までランダムにメモリーし、プリセットチューニングすることができます。
- メモリーを変更したい場合は、メモリーするときと同じ手順で前の上にメモリーします。前のメモリーは消え、新しくメモリーすることができます。



★FMステーションカード

プリセットボタンを押すと、そのボタンに対応したインジケータが点灯します。プリセットボタンP1～P16に放送局などのプリセットが完了しましたら、各々のボタンに放送局名を表示します。図のように、本体左側のねじを2本⊕ドライバーではずし、側板をはずします。さらに図のように、ステーションカードホルダーを引き出し、付属のステーションカードからプリセットした放送局名を選んで交換してください。セットができ

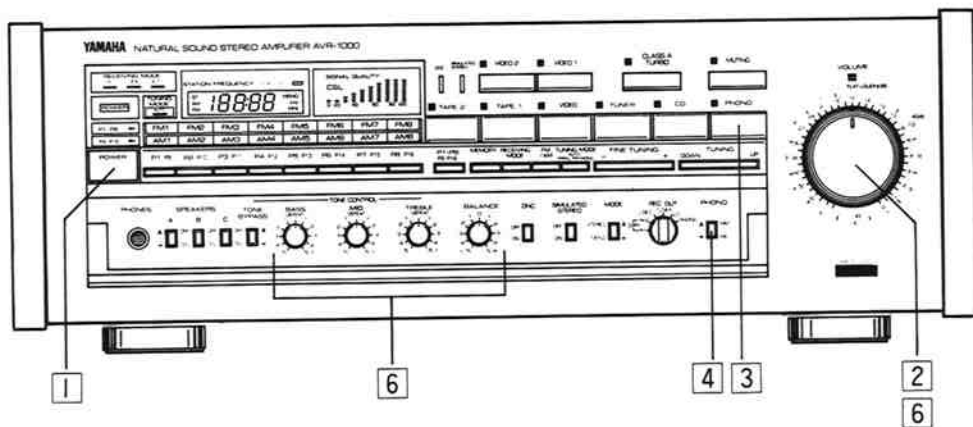
ましたらホルダーを元のように差し込みます。次に、本体の穴の部分と側板の取り付け金具を2ヶ所をかみ合わせて、側板を本体にねじで元のように取り付けます。その際、上面パネルと側板の高さの差が約0.5mmになるように取り付けてください。



レコード演奏のしかた

1. 本機及びレコードプレーヤーの電源を入れてください。
2. レコード演奏を始める前(レコードに針を降ろすとき)と、演奏終了時(針を上げるとき)には、一度音量を最小にしてください。
3. インプットセレクターの“PHONO”ボタンを押します。

4. フォノセレクタースイッチをあなたのカートリッジに合わせてMMまたはMCポジションにしてください。
5. プレーヤーを操作し、レコードの演奏を始めます。
6. ボリュウム、トーンコントロール、ラウドネスなどで音量や音質を調整してください。



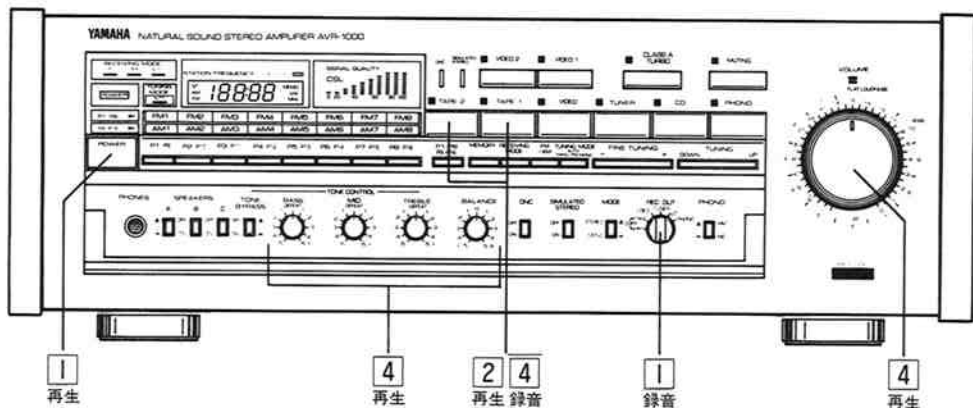
テープデッキの再生・録音のしかた

■再生のしかた

1. 本機及びテープデッキの電源を入れてください。
2. インプットセレクターの“TAPE 1”または“TAPE 2”ボタン（再生したいテープデッキに合わせる）を押します。
3. テープデッキを再生状態にします。
4. ボリューム、トーンコントロール、ラウドネスなどで音量や音質を調整してください。

■録音のしかた

1. REC OUTセレクターで録音したいプログラムソース（PHONE、VIDEO、CDまたはTUNER）を選びます。
2. 録音するプログラムソースをスタートさせます。
3. テープデッキを操作し、録音を始めます。（同時に2台のテープデッキに録音できます。）
4. 録音内容をモニター（録音している音を聞く）するときは、インプットセレクターの“TAPE 1”または“TAPE 2”（録音しているテープデッキに合わせる）ボタンを押しますと、録音内容のモニターができます。

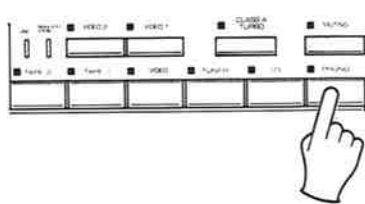


■ダブルアクションについて

インプットセクターで選んだプログラムソースを聞きながら、別のプログラムソースをREC OUTセクターで選んで録音することができます。……ダブルアクション

ダブルアクションの主な例は下表のようになります。

インプットセクター	REC OUTセクター	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聴きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながらレコードを録音できます。



レコードをスピーカーで聴きながら、FMまたはAM放送を録音する場合。

ビデオソースからの録音は、REC OUTセクターでVIDEOを選んであとVIDEO 1またはVIDEO 2を選択します。

この他にも、インプットセクターとREC OUTセクターの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重に楽しむことができます。

■テープダビングについて

テープデッキが2台ありますと、テープからテープへダビングすることができます。

リアパネルTAPE 1端子に接続しているテープデッキ1から、TAPE 2端子のテープデッキ2へダビングする場合は、

- 1.REC OUTセクターを“TAPE COPY 1 ▶ 2”にします。
- 2.テープデッキ1を再生状態にし、テープデッキ2で録音します。テープデッキ2から1へも同様にして、REC OUTセクターを“TAPE COPY 2 ▶ 1”にし、上記2を逆の状態にするとダビングすることができます。



テープデッキ1からテープデッキ2へダビングする場合、レックアウトセクターを“1 ▶ 2”の位置に合わせます。

※録音中あるいはダビング中、トーンコントロール、ラウドネス、バランス、ボリュームなどを操作しても、録音には影響しません。

ビデオの再生のしかた

■再生のしかた

AVR-1000には2台のビデオデッキまたはビデオディスクプレーヤーが接続できます。再生する場合は、フォノ、チューナー、CDを選ぶ方法と同じです。

1. 本機及びビデオデッキの電源を入れてください。
2. インプットセクターでVIDEOを押す。
3. ビデオセクターでVIDEO 1またはVIDEO 2を選択してください。

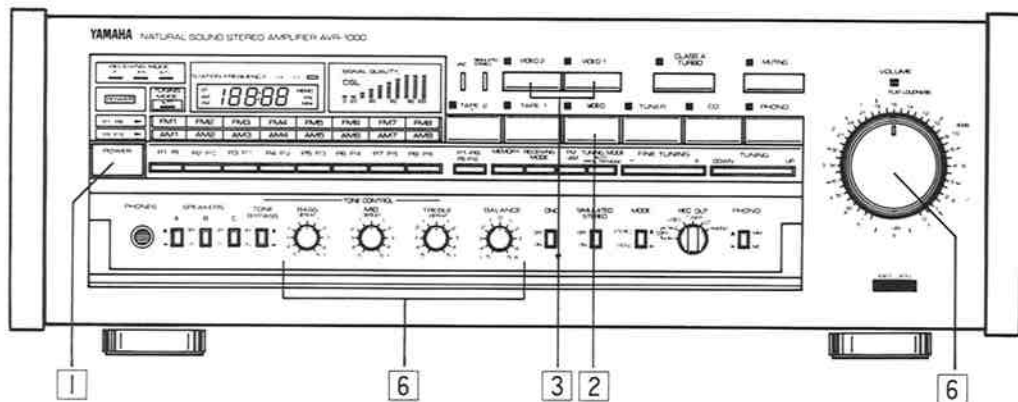
4. TVの電源を入れて、TVの入力セクターをビデオにセットします。

5. ビデオソースの再生を始めてください。

6. AVR-1000のボリューム、ラウドネス、トーンコントロールを使って、お好みの音量・音質に合わせてお楽しみください。

※この場合モニターTVからは音はできません。

※ビデオデッキの取扱説明書もよくお読みください。



■ビデオソースのダビングについて

2台のビデオデッキを接続すると、VIDEO 2からVIDEO 1に（1方向のみ）ビデオソースをダビングすることができます。

1. 本機及びビデオデッキ2台の電源を入れてください。

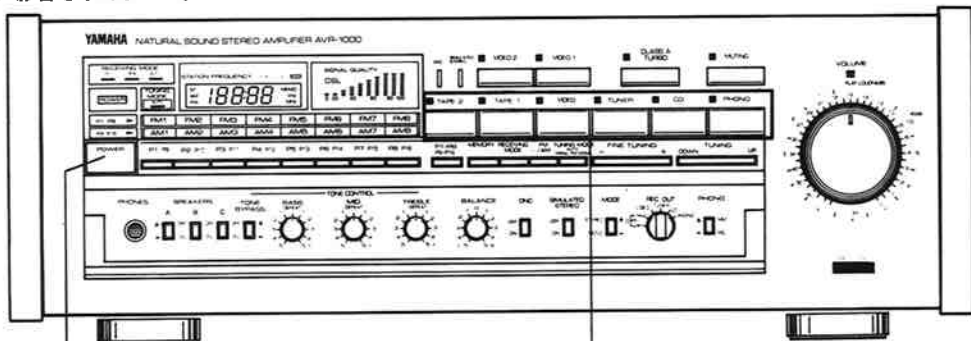
※この状態でVIDEO 1のREC OUT端子には、常にVIDEO 2の映像・音声が入っています。

2. VIDEO1に接続したビデオデッキを録画状態にして、同時にVIDEO2側のビデオを再生してください。

※本機のボリューム、ラウドネス、トーンコントロールは、ダビング中の音声に影響を与えません。

■Hi-Fiビデオデッキをオーディオデッキとして使うにはオーディオソースの録音にハイファイビデオデッキを使用する場合、ハイファイビデオデッキのオーディオ入力端子をTAPE 1またはTAPE 2のREC OUTに接続しなしておください。

※録音のしかたは、27頁の「ダブルアクションについて」、「テープのダビングについて」と同じ方法で行えます。



※電源は忘れずに入れてください。

※ビデオのダビング中はダビングに関係なく、どのソースでも聞けます。

参考仕様

AUDIOセクション

定格出力	
20Hz~20kHz, 0.015% THD, 6Ω	140W + 140W
ダイナミックパワー	
1 kHz, 8Ω / 6Ω / 4Ω / 2Ω	180/220/280/360W
パワーバンド幅	
0.1% THD, 70W / 6Ω	10Hz~50kHz
ダンピングファクター	
1 kHz, 8Ω	60
入力感度/入力インピーダンス	
PHONO MC	160μV / 220Ω
MM	2.5mV / 47kΩ
CD/TAPE/VIDEO	150mV / 47kΩ
最大許容入力	
PHONO MC	8mV
MM	110mV
出力電圧/出力インピーダンス	
REC OUT	150mV / 470Ω
ヘッドホン出力/ヘッドホンインピーダンス	
0.015%	0.91V / 270Ω
周波数特性(20Hz~20kHz)	
CD/TAPE/VIDEO	+0 -0.3dB
RIAA偏差	
20Hz~20kHz, PHONO MC	±0.5dB
MM	±0.3dB
10Hz~100kHz, MM	±0.5dB

全高調波歪率(20Hz~20kHz)

PHONO MC → REC OUT (3V)	0.005%
MM → REC OUT (3V)	0.003%
CD/TAPE → SP OUT (70W / 6Ω)	0.015%
VIDEO → SP OUT (70W / 6Ω)	0.02%

信号対雑音比(IHF-A-Network)

PHONO MC (250μV, 入力ショート)	69dB
MM (2.5mV, 入力ショート)	86dB
CD/TAPE (入力ショート)	103dB
VIDEO (入力ショート)	91dB

残留ノイズ(IHF-A-Network)

120μV

チャンネルセパレーション(1kHz, Vol.-30dB, 5.1kΩ)

PHONO MC/MM	60dB
VIDEO/TAPE	60dB

トーンコントロール

BASS	±10dB (50Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE	±10dB (20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz
MID	±12dB (1kHz)
センター周波数	1kHz

フィルター特性

ローフィルター(組み込み)	10Hz, -12dB/oct
---------------	-----------------

コンティニュアスラウドネスコントロール

最大補正量(聴覚補正カーブによる)	-40dB (1kHz)
-------------------	--------------

オーディオミュートイング

-20dB

FMチューナーセクション

受信周波数	76~90MHz
50dB S/N感度(IHF, 75Ω)	
MONO	1.5μV(14.8dBf)
STEREO	20μV(37.3dBf)
実用感度(IHF MONO)	
30dB $\frac{S}{N}$, 75Ω	0.75μV(8.8dBf)
イメージ妨害比	40dB
IF妨害比	90dB
スプリアス妨害比	70dB
AM妨害比(IHF)	55dB
キャプチャレシオ(IHF)	
LOCAL	1.2dB
MONO	2.5dB
実効選択度 DX	85dB
S/N比(IHF)	
MONO	85dB
STEREO	81dB
全高調波歪率	
MONO(LOCAL)	100Hz 0.05%
	1kHz 0.05%
	6kHz 0.1%
STEREO(LOCAL)	100Hz 0.07%
	1kHz 0.07%
	6kHz 0.15%

ステレオセパレーション

50Hz	45dB(LOCAL)
1kHz	50dB(")
10kHz	45dB(")
周波数特性	
30Hz~13kHz	0±0.5dB

AMチューナーセクション

受信周波数	513~1,620kHz
実用感度(IHF)	250μV/m
選択度(1,000kHz±10kHz)	24dB
S/N比	50dB
イメージ妨害比(1,000kHz)	40dB
スプリアス妨害比(1,000kHz)	50dB
全高調波歪(400Hz)	0.3%

チューナーオーディオセクション

出力レベル/インピーダンス(固定端子)

FM(100%変調, 1kHz)	500mV/2.8kΩ
AM(30%変調, 400Hz)	150mV/2.8kΩ

総合

定格電源電圧・周波数	AC100V, 50/60Hz
定格消費電力	250W
ACアウトレット	
SWITCHED×2	合計100W MAX
UNSWITCHED×1	200W MAX
外形寸法(W×H×D)	473×174×423mm
重量	14kg

※規格および外観は改良のため予告なく変更することがございます。

故障と思われる時には

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電

源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

	症 状	原 因	処 置
ア	電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
		SPEAKERSスイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。
		VOLUMEツマミが絞られている。	VOLUMEツマミを右(時計方向)に回してください。
		入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
ン	インプットセレクターを切り換えても再生音が全く出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
		アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
ブ	左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	BALANCEツマミがLかRのどちらかにずれている。	BALANCEツマミを正しく調整してください。
		アンプとスピーカーの位相(+、-)が合っていない。	アンプとスピーカーの位相(+、-)を合わせて接続しなおしてください。
部	低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
		プレーヤーのアース線がはずれている。	アース線をリアパネルGND端子に接続してください。
		MCカートリッジの近くに電源コードがある。	電源コードは、カートリッジやPHONO出力コードの近くには配線しないようにしてください。
		プレーヤーのそばにTV受像機がある。	TVとプレーヤーを離すか、TVのスイッチを切ってください。

	症 状	原 因	処 置
アン プ 部	レコード再生時、VOLUMEをあげると“ワーン”という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして“ハウリング”をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください。)
	MCカートリッジの音が小さい。	PHONOセレクターがMMの状態になっています。	PHONOセレクターをMCにセットしてください。
F M 放 送 受 信 時 の ト ラ ブ ル	“バリバリ、ガリガリ”という雑音時々入る。	モーターバイクや自動車などのイグニッションノイズ	FMアンテナをできるだけ高く、道路から離れた位置に建て、同軸ケーブルを使用してください。
		サーモスタットつき電気器具の雑音	雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取り付けてみてください。
	ステレオ放送になると雑音が多くなり聞きづらい	FMステレオ放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力弱い場合に起こる。	アンテナの接続を確認してください。
			FMアンテナを建ててください。
	オートサーチチューニングができない。		FMアンテナの向きを変えてみるか、多素子のものにしてみてください。
			マニュアルあるいはファインチューニングで選局してみてください。
	ステレオ放送受信時、FM STEREOインジケータがチカチカ点滅し雑音も多い。	アンテナ入力の不足	受信地域の電界強度に合ったアンテナを建ててください。TUNING MODEスイッチをMANUAL/MONOにしてみてください。
		同調が完全にとれていない。	正確に同調をとり直すか、メモリーし直してください。
FMアンテナを建てているが音が歪み、クリアな受信はできない。	マルチパス妨害をおこしている	アンテナを指向性の良いものに交換するか、マルチパスを受けにくいところにアンテナを設置してください。	
ステレオ受信できない。	TUNING MODEがMANUAL/MONOになっている。	TUNING MODEスイッチをAUTOにしてみてください。	
プリセットチューニングができない。	長い間使用しなかったため、メモリーが消えている。	もう一度メモリーしてください。	

	症 状	原 因	処 置
AM放送受信時の トラブル	感度が充分にない。	電波が弱いあるいはアンテナの接続や方向があ っていない。	AMループアンテナの方向を変えてみてください。
	オートサーチチューニングが できない。		屋外にAM用アンテナを張ってみてください。 マニュアルチューニングで選局してみてください。
	“ジーン”“ザーン”“ガリガリ”など の連続雑音が入る。	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、 サーモスタット付きの電気器具による雑音。	AM用屋外アンテナを張り、アースを完全にと ると減少しますが、完全に除去するのは困難で す。
	“ビー”“ター”“シーン”などの 音が入る	隣接局の電波が受信中の放送周波数と干渉を起 こしている。 テレビなどをそばで使用している。	AMループアンテナの向きを変えてみてください。 テレビから離すか、テレビのスイッチを切ってください。

■著作権について

あなたが、放送やレコード、その他の録音物から録音したもの、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

*放送やレコードその他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。

*従って、それらから録音したテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。

ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお得です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください)

●ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気サービスセンター

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道 〒065 札幌市東区本町1条9-3

TEL(011)781-3621

仙台 〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F

TEL(0222)36-0249

東京 〒211 川崎市中原区木月1184

TEL(044)434-3100

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F

TEL(0252)43-4321

浜松 〒432 浜松市東伊場2-13-12

TEL(0534)56-9211

名古屋 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2

日本楽器流通センター3F TEL(052)652-2230

大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内

TEL(06)877-5262

四国 〒760 高松市丸龜町8-7

TEL(0878)51-7777 (0878)22-3045

広島 〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39

TEL(082)874-3787

九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-14

TEL(092)472-2134

本社

営業技術課 電気サービスセンター 〒430 浜松市中沢町10-1

TEL(0534)65-1111(代)

■ステレオ営業所

北海道 〒064 札幌市中央区南10条1-4 ヤマハセンター内

TEL(011)512-6115

仙台 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル

TEL(0222)23-3101

東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F

TEL(03)255-6767 (03)255-5691 (03)255-2201

(03)255-1825 (03)255-2605 (03)255-4701

横浜 〒211 川崎市中原区木月1184

TEL(044)434-4871

新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 ヤマハ新潟センター内

TEL(0252)41-2084

千葉 〒260 千葉市千葉港2-1 千葉中央コミュニティセンター内

TEL(0472)47-6622

水戸 〒310 水戸市三ノ丸1-4-73 三井ビル5F

TEL(0292)24-7774

高崎 〒370 高崎市蓮雀町75 ヤマハ高崎月販内

TEL(0273)27-3322

静岡 〒422 静岡市緑ヶ丘町1-15 緑ヶ丘ビル48

TEL(0542)85-4878

浜松 〒432 浜松市東伊場2-13-12

TEL(0534)56-4461

名古屋 〒464 名古屋市千種区東山通5-65

ヤマハ東山センター3F TEL(052)782-7551

北陸 〒920 金沢市武蔵町2-12 むらばたビル5F

TEL(0762)21-2166

関西 〒556 大阪市浪速区敷津東 1-9-16 ヤマハなんば

センター内 TEL(06)647-6411 (06)445-6431

中国 〒730 広島市中区八丁堀10-14

TEL(082)221-4123

四国 〒760 高松市丸龜8-7 ヤマハビル7F

TEL(0878)22-8642

北九州 〒803 北九州市小倉区堅町2-3-13

ヤマハ小倉センター内 TEL(093)592-3122

九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4

TEL(092)472-2131

■ヤマハオーディオ日本楽器直営店

札幌店 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目

ヤマハセンター TEL(011)512-6126

仙台店 〒980 仙台市一番町2-6-5

TEL(0222)27-8517

銀座店 〒104 東京都中央区銀座7-9-14

TEL(03)572-3133

浜松店 〒430 浜松市鍛冶町321-6

TEL(0534)54-4327

名古屋店 〒460 名古屋市中区錦1-18-28

TEL(052)201-5153

心斎橋店 〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39

TEL(06)211-8869

神戸店 〒650 神戸市中央区元町2-7-3

TEL(078)391-7651

海外拠点

ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・

スウェーデン・シンガポール・フィリピン

日本楽器製造株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.(0534)65-1111(代)

住所および電話番号は変更になる場合があります。